

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870500137		
法人名	社会福祉法人 光明寺福祉会		
事業所名	グループホームけいあい		
所在地	大野市牛ヶ原154-1-1		
自己評価作成日	令和 3年 10 月25 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「やわらかいところ」という理念を具体的に「五感の刺激を大切に生きがいと自立、敬愛に溢れた家づくり、地域に開かれたホーム」をあげ、今後も日々努力していきたい。自然に囲まれた環境の中、家庭菜園や花壇づくりもやっている。メダカも飼育しており、ベランダには睡蓮鉢で飼育、憩いの場のホール内のテーブル上には、水槽で飼育し、癒しの空間を作っている。近所の山で取れた食材、職員の趣味の畑で収穫されたものを食卓にのせている。プランターで成った野菜なども食材となっている。梅干し、餅、佃煮、吊るし柿、かき餅など昔から家庭で作られてきたものを利用者の方皆さんで懐かしみながら話し、楽しんで作っている。誕生日や伝統的行事(彼岸、半夏生土用、報恩講、米寿、正月、初釜)を積極的に取り入れている。最近では、ウクレレやピアノの伴奏でふるさとときらき星の2曲の合唱を毎日歌い、大きな声を出し口体操の一環となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな環境の中にあり、「やわらかい心」という理念を職員と利用者が共有できるように、さらに具体化した「五感の刺激を大切に生きがいと自立、敬愛に溢れた家づくり、地域に開かれたホーム」を意識づけている。共用空間には、職員と利用者の共同作品や、外出・おやつ作り・イベント時の楽しい写真を飾り、メダカの水槽や大きな炬燵からも家庭的な暖かさを感じることができる。食を通じた活動に力を入れており、四季や個々の生活史が伺える。提供する食事は手作りをモットーとして、利用者の好みを取り入れながら一緒に楽しんでいる。一人ひとりが自然と役割を分担し、家庭生活の延長として繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない コロナ禍の為
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない コロナ禍の為 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やわらかいところ」という理念をより具体化した基本理念をホールの所々に掲示し、常に意識し、日々努力をしている。適切な介護が出来るか毎日振り返るようにしている。月一回の勉強会でも振り返り評価する。	法人・事業所の理念をホールの随所に掲示し、個人目標をキッチンに掲示することで、毎食前の唱和とともに意識づけを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体である光明寺福祉会の各施設との交流は日常的に行われている。コロナ禍でいまはされていない。ホームの便りを月1で地区の公民館に配布。地域の鮮魚店、八百屋、豆腐店、洋品店を利用し繋がりを持っている。	コロナ禍のため、小学校の運動会にやフラダンスの同好会との交流はできていない。事業所の便りを毎月地域の公民館に配布する活動は続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われている、介護の講演時には積極的に参加するようにしている。介護福祉士を目指す学生の実習生受け入れ、福祉相談員の受け入れを行っているが、今はコロナ禍で出来ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、現状報告、外部評価の報告等を行い、意見交換している。コロナ禍で開催出来ず、書面での報告となる。現時点で11月5日に開催予定である。	構成メンバーは、3か所の自治会長や市職員、長寿会、民生委員、家族代表である。2か月ごとに開催していたが、コロナ禍のため議事録を書面で報告している。今後、開催を再開する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年6回の運営推進会議に参加していただき、色々なアドバイスを頂いている。同法人の2つのグループホームの会議に管理者が参加し意見交換し、交流している。また、市町村からのメールや電話のやり取りを行っている。	市職員は運営推進会議のメンバーであり、事業所の実情やケアサービスの取り組みについて日頃から相談に応じてもらっている。地域包括支援センターの研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の課題にし、知識を付け身体拘束廃止の意識をもつよう心掛け適切な介護に取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアルを作成している。研修の機会があれば参加もしている。施錠は基本的にはしていない。一部の危険箇所は時間を決めて確認している。	身体拘束防止マニュアルや外部研修の参加者の報告を参考に、繰り返し内部研修を行うことで、身体拘束をしないケアについて正しい理解を深めることを期待している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づき、勉強会での課題にしたり、職員間の連携や研修参加等、意識向上を高め、虐待の無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、支援はしていないが権利擁護に関する制度の理解に研修など参加し学び、勉強会で取り上げ活用し支援していきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族の要望、意見を聞き、十分な説明ができるよう、ゆとりを持った対応をこころがけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時(受診時)に日頃の様子を伝え、家族の要望意見を聞くようにしている。	意見箱を設置し、家族には、電話で意見を聞いたり、受診時の報告の際に話したりしている。利用者・家族へのアンケートは実施していないが、前向きに考えている。利用者の生活状況は、毎月の広報誌で家族に知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会で意見交換している。	毎月、勉強会の時間を利用して運営に関する意見を交換している。同法人内の事業所管理者との意見交換の場も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前は管理者による評価を提出していたが、今はしていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修会に参加できるよう勤務調整を行い、提案、指示されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に開設時より入会している。研修や、施設見学に参加している。今はコロナ禍でリモートで参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを充分に行い、サービスにつなげる様にしている。本人に当ホームでの過ごし方など分かり易く話させて頂き安心して来ていただけるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当のケアマネジャーの情報を基に、家族の希望や不安など意見を何時でも受け入れ、話し合えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族の状態を考慮し、他施設の紹介を行うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心できる居場所(家)となるよう、心をもって寄り添い、不安を緩和させていけるよう、心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見要望を充分にうけとめ話し合い、本人同様、不安の緩和、共に安心して幸せでいられるよう、接触し、良好な関係作りに努めていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナ禍であまりできていない。終息すれば、色々な関係継続の支援に努めていきたい。	馴染みの美容院に出かけたり、家族への電話のやり取りを支援したり、手紙や年賀状の作成を手伝ったりする等、これまでの関係性を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が混じっていないくても、利用者同士で団欒し、笑い声や会話が伺える。ほのぼのとした理想の光景、職員も橋渡しになり、日常の光景になるよう、支援していきたいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族さまより、はがきやお手紙などいただいたり、不要になった介護用品を寄付していただいたり、良い関係であったとおもわれる。また、次に繋げられたらともおもう。変わらず、フォロー、相談や支援に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向などは、これまでの生き方からヒントを得られることがある。会話を大事にしている。	利用者の意向については家族に確認を取り、意思表示が分かりにくい利用者には日々の行動や表情から意思を丁寧に読み取り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ゆとりある時間を作り、利用者の担当職員は関わり、その人を知って、その得た情報を他の職員と共有し、本人が満足できる支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察、把握し、変化があったときは、すぐに対処できるよう、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月毎のケアカンファレンスを行い意見交換し、計画に反映できるようにしている。	ケア会議は6か月ごと、モニタリングは3か月ごとに実施している。本人の意向・家族の意見を反映した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテやケアチェック表に日々の状態や気づきの記入、申し送りノートに記入し、職員間で共有し、実践や計画を検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の意見アイデアを聞き、満足のいく支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元高校生、一般のボランティア、福祉相談員、介護実習生の受け入れを行っている。大変よろこばれている。コロナ禍で中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続し受診出来る様、支援している。	受診には基本的に家族が同行し、かかりつけ医との情報の共有や見直しを行っている。事業所は家族を介して情報を共有している。月1回、精神科医の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の訪問看護師に相談し、アドバイスを受ける。体調に変化があったときは、すぐに報告し、早期対応、早期受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関(医師・看護師・ソーシャルワーカー、家族)との情報を得、退院時には情報提供を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に必ず、家族の方に説明をしている。その時の状態により、又その都度家族、主治医、訪問看護師と話し合いを持ち、支援していくように考えていきたい。	「重度化した場合における看取りの指針」に基づいて訪問看護から丁寧に説明を行い、状況に応じてその都度本人や家族、主治医と話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの確認、研修会、勉強会、看護師から指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、防災訓練を行っている。災害が多くなってきている近年であり、訓練回数を増やしたり、毎日、意識するよう心がけている。また利用者には職員の誘導に従い行動する様に、毎日話している。	夜間想定訓練のほか、月1回を目標に、防災訓練を同法人施設を避難場所として取り入れている。食事は手作りであるため、食材は1週間以上の備蓄がある。	今後も様々な災害を想定した訓練を併設事業所と連携して実施するとともに、地域住民との協力体制作りを強化することに期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームは家庭的で親しみのあるイメージではあるが、人格の尊重、誇りプライバシーを意識している。利用者の方には勿論、職員間の言葉使いにも注意している。	職員が不適切な言動をとっている場合には、職員同士、あるいは管理者が注意している。プライバシーや尊厳に関する研修に職員を派遣し、毎月の勉強会では、全員が振り返りの時間としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、できる限りそえられるよう、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人中心でできる限り希望に添える様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれな方がいらっしゃり、他の利用者の方の刺激にもなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話で好みなどを聞き出し、食事に取り入れている。午前と午後のおやつは職員の手作りをしている。野菜の下処理や準備、後片付け等役割分担し、みなさんに協力して頂いている。	普段から利用者の食事の好みを聞いてメニューに反映している。野菜の下処理や味付け、食事の準備、後片づけ等、利用者と職員と一緒に食事作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、形態を把握し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、週3回のポリデント使用での入れ歯洗浄。口腔内チェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握をし、自立されていない方のトイレ誘導の声掛け。自立されていてもパットの汚染をされている方を見逃さず、対処し努めている。	ケアチェックシートに記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、習慣を活かしたトイレ誘導や自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、自立していない方のトイレ誘導を怠らない。水分補給や毎日の運動、食事形態、ヨーグルトにオリゴ糖を加え、毎朝、摂取している。食事の献立にも工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々にそった支援はできていないが、体調の悪いとき以外は週3回の入浴でほとんどの方には満足していただいている。	週3回の入浴を実施している。ゆず、菖蒲、花梨等を入れて入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後の口腔ケア後にパジャマに着替え、個々の思うままに過ごし、安眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護による薬情の作成と説明指示、助言により、確実に服用し状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族の情報から好きなこと、興味のあるものを見つけ、趣味であったものを取り上げて、生き生きとした楽しい日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族との外出(自宅、外食)施設からの外出行事には1年を通して県内色んな所に出掛けている。今はコロナ禍で出来ていないが、先日、車から降りずにドライブでコスモス畑に久しぶりに外出し、大変喜ばれている。	コロナ禍のため、小学校の運動会やフラダンス同好会への慰問等の交流は現在できていない。毎月事業所の便りを地域の公民館に配布する活動は続けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人は持つことはない。管理も家族がしていると認識されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所時に電話取次の意向を聞いている。支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物を置いたり、メダカの水槽を置いている。	共用空間は明るく開放的である。キッチンからの音や匂い、食材等から生活感や季節感を感じることができ、植物やメダカ等、利用者が和める素材も取り入れて配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広々といくつものソファを置き、くつろいでおられる。会話や笑い声などみられる。ベランダには花や睡蓮鉢を置き、外の空気に触れることもできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや小物、家族の写真、ご自分で描かれた絵などを飾り、居心地よく過ごされている。	自筆の習字や名前を貼ることで、利用者は迷うことなく自室に戻ることができている。家族の写真や自分が描いた絵等も飾り、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口に名札を貼ったり、トイレの場所の目印、洗面所の各自の歯ブラシ、コップ等一目でわかるように工夫し、声掛け、見守りを行っている。		